

「家庭決算書」

会計期間 1月1日～12月31日

家庭決算書へようこそ！

長年にわたる実績を誇る家庭決算書は、本格的な「家庭経営」用の会計ソフトで、会社と同じ複式簿記で作られています。

家庭決算書は、「家庭経営」のために家庭の経営者が自分自身で作り上げるべき会計情報です。

家庭決算書を作成する最終的な目標は、「健全な家庭生活を維持」し「消費満足度を高める」ことにあります。

家庭決算書には、働き方、暮らし方、家族の成長など、家庭生活のすべてが家庭の内部情報として、会計数字で記録されていきます。ですから、家庭生活における必需品のひとつで、お金を使うという意味決定をする場合に便利で有効なツールとして利用することができます。もちろん、あなたが仕事をして、今までに築き上げた財産の金額と今年1年間に築き上げた財産の金額も明らかにしてくれます。

家庭決算書を持てば、家庭の経営者は、家庭の財産状況がどのようになっているのか、また家庭の正味財産をいかに増やすかなどの方法が良く分かり、どうするのがいいのかをしっかりと考えることができます。さらに、家庭生活のライフイベントの経済的な影響の規模を把握したり、その影響をコントロールする方法を理解したりすることで、自分自身の経営ができ、人生設計ができ、家庭生活のゴーイングコンサーン（継続）も可能になります。

また、家庭の経営者は、家庭生活の事実を「会計数字」で把握することによって、今、物を購入することが良いのか、待つべきなのかを判断したり、自分の家庭が経営危機に瀕していたりしないかとか、どこが問題かなどをはっきりさせることができます。もし、債務超過になったとしても、その事実を会計数字で正しく認識できれば、そこから改善がはじまるのです。

会社で複式簿記を利用して作られる会計情報を「財務諸表」といい、家庭で複式簿記を利用して作られる会計情報を「家庭決算書」といいます。

これからの時代は、会社だけでなく家庭でも、決算書を使って経営分析をしたり、経営に対する評価や反省をしたりして、今後のあり方を考え、将来の計画を作成していくことが必要だと思います。

それでは、自分たちの真実の会計情報・「家庭決算書」を作っていきます。

スタート時点の初期設定は、

1 開始月の確定

2 初期・財産対照表の作成 の2つだけです。

1. 開始月の確定（上部の **開始月へ** ボタンをクリックして下さい）

開始月の選択で、開始月を確定します。

開始月は原則として1月からになりますが、その他の月からでも開始できます。

ただし、1月以外の月を選択した場合は、選択肢した月より前の月のデータ入力が出来なくなりますのでご注意ください。

また、入力は、今年度分だけとなります。他の年度分は入力できません。

2. 「初期・財産対照表」の作成

開始月の選択を終えたら、「初期設定」画面の「現金」から始まる各科目に、あなたが所有している財産（資産、負債、家族財産）を入力して、「初期・財産対照表」を作成します。

全ての科目はあとから追加、訂正、削除が可能ですので、手元に正確な金額がわかる資料がない場合は入力を飛ばしたり、概算を入力してあとから修正を加えたりすることができます。

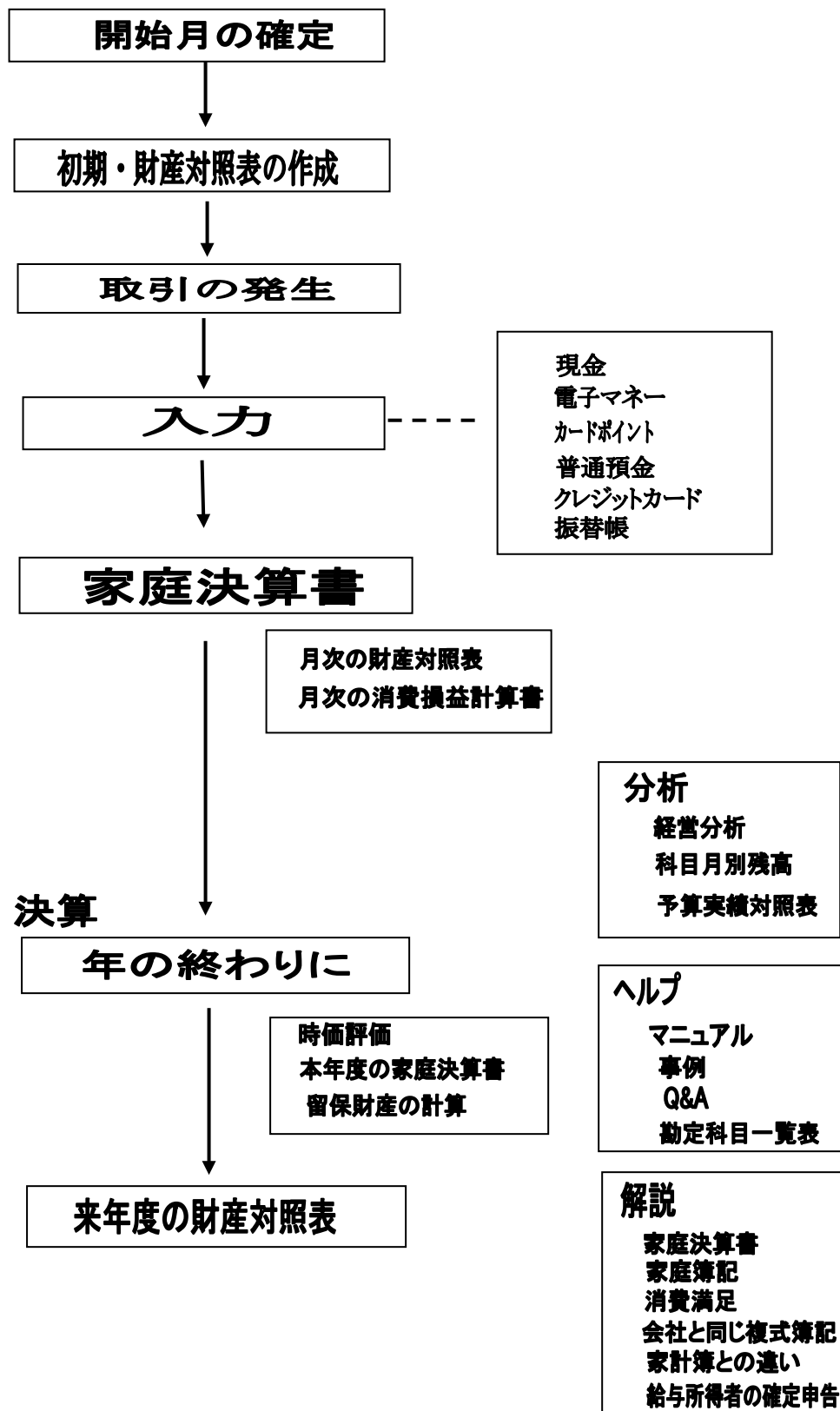
最初の科目の「現金」を入力して、「初期・財産対照表」を表示する方法を解説します。

- ①「初期設定」画面の「現金」というタブを、クリックしてください。
- ②手持ち現金の入力画面が開きますので、今、確認できる「現金」の金額を入力してください。
- ③「現金」の入力が終わったら、「完了」ボタンをクリックします。
- ④「初期設定入力を終え、はじめの財産対照表を表示します。よろしいですか？」と表示されますので、「はい」をクリックします。
- ⑤「初期設定 財産対照表」が表示されるので、資産の部にある「現金」という科目に、入力した現金の金額が正しく表示されているか確認してください。
- ⑥現金の金額の確認を終えたら、「ようこそ」の「開始月へ」ボタンまたは左カラムの「初期設定」ボタン（または「初期・財産対照表」の表内科目ボタン）から、「初期設定」画面に戻り、「電子マネー」「カードポイント」「普通預金」……と、各科目のタブをクリックして画面を切り替え、最後の科目まで入力を行っていきます。
- ⑦入力の途中段階であっても、入力画面下の「完了」ボタンをクリックすると、そこまでに入力した内容がデータ保存され、「初期・財産対照表」が再集計されて表示されます。
（注）入力画面の右肩の「×（閉じる）」ボタンは画面表示を閉じるときにのみ使用します。「×（閉じる）」ボタンをクリックしても、それまでに入力した内容は保存されませんのでご注意ください。
- ⑧最後の科目の「正味財産」入力画面に表示される「留保財産」は、あなたが、今まで働いて、自力で築き上げた財産の金額を表しています。

継続使用されている方について

継続使用されている方は、前年度版の「年の終わりに」で作成した「来年度の財産対照表」の各科目の金額を、「初期設定・財産対照表」の各科目ごとに入力してください。

家庭決算書の作成手順は次の通りです



(参考)

家庭の財産は、1年間の消費活動の結果、「現在の財産」から1年後の「新しい財産」へと変化していきます。
この変化を家庭決算書では、次のように表します。

初期・財産対照表

(20xx 年 1 月 1 日現在)

(単位：円)

左方 (ひだりかた)	金 額	右方 (みぎかた)	金 額
資産の部		負債の部	
現 金	15,000	住宅ローン	10,000,000
電子マネー	0	その他借入金	0
普通預金	300,000	カード未払金	30,000
定期性預金	1,000,000	未払金	0
その他預金	0	その他負債	0
土 地	0	負債合計	10,030,000
建 物	0		
マンション	25,000,000	正味財産の部*	
有価証券	0	家族財産	3,000,000
保険積立金	0	留保財産	13,785,000
車 両	500,000	当期消費損益	0
売却可能な高額品	0	正味財産合計	16,785,000
その他資産	0		
現金過不足	0		
資 産 合 計	26,815,000	負債正味財産合計	26,815,000

家庭の真実の財産

1年後の
財産対照表



1年後の財産対照表

(20xx年12月31日現在)

(単位：円)

左方(ひだりかた)	金額	右方(みぎかた)	金額
資産の部		負債の部	
現金	26,523	住宅ローン	9,400,000
電子マネー	5,000	その他借入金	0
普通預金	850,000	カード未払金	58,000
定期性預金	1,004,000	未払金	0
その他預金	0	その他負債	0
土地	0	負債合計	9,458,000
建物	0		
マンション	24,000,000	正味財産の部	
有価証券	0	家族財産	3,000,000
保険積立金	0	留保財産	13,785,000
車両	500,000	当期消費損益	142,523
売却可能な高額品	0	正味財産合計	16,927,523
その他資産	0		
現金過不足	0		
資産合計	26,385,523	負債・正味財産合計	26,385,523

1年後の家庭の
真実の財産

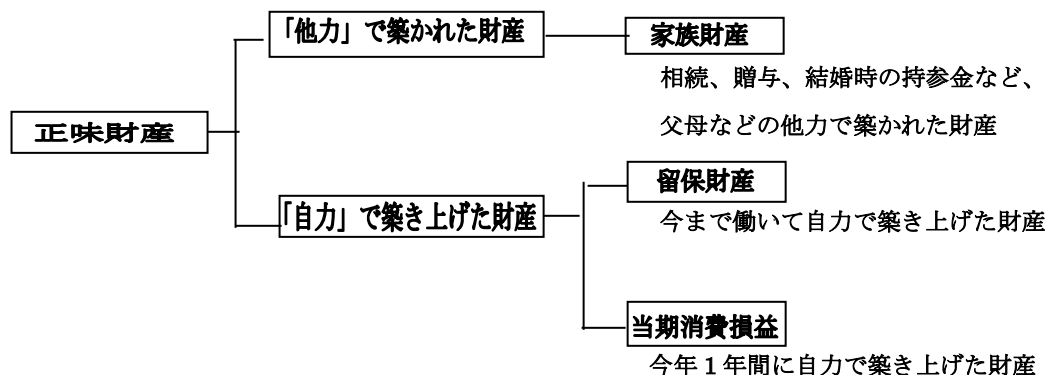
消費損益計算書の
金額と一致

1.家庭の真実の財産＝正味財産は、資産の合計金額から負債の合計金額を引いて計算されます。

初期・財産対照表 正味財産(16,785,000)＝資産合計(26,815,000)－負債合計(10,030,000)

1年後の財産対照表 正味財産(16,927,523)＝資産合計(26,385,523)－負債合計(9,458,000)

2.正味財産の内容



「自力」で築き上げた財産は、正味財産の金額から「他力」で築かれた財産の金額(家族財産)を引いて計算されます。

初期・財産対照表 留保財産(13,785,000)＝正味財産(16,785,000)－家族財産(3,000,000)

3.正味財産は、相続財産に該当し、不動産などを相続税評価額に置き換えると相続財産の金額を計算することが出来ます。

消費損益計算書

(20xx 年 1 月 1 日～20xx 年 12 月 31 日)

(単位：円)

科 目	年 間	科 目	年 間
収入の部	金 額	特別収入の部	金 額
給 料	3,000,000	受取利息	4,000
賞 与	500,000	受取配当金	0
家族収入	0	受贈給付金	0
年金・その他	0	資産評価益	0
収入合計 (イ)	3,500,000	有価証券売却益	0
消費の部		その他	0
税金等		特別収入合計 (ハ)	4,000
(所得税)	120,000	特別消費の部	
(住民税)	60,000	住宅ローン支払利息	588,955
(社会保険料)	360,000	その他支払利息	0
(その他税金)	0	資産評価損	1,000,000
日常生活費		有価証券売却損	0
(食料費)	152,605	その他	0
(通信費)	111,132	特別消費合計 (ニ)	1,588,955
(交通費)	75,310	当期消費損益 (ホ)	142,523
(水道光熱費)	43,200		
(新聞図書費)	89,700		
(消耗品費)	12,325		
その他生活費			
(外食費)	173,300		
(交際費)	119,500		
(医療費)	0		
(旅行費)	218,250		
(教育費)	39,600		
(衣料費)	197,600		
消費合計 (ロ)	1,772,522		
通常消費損益	1,727,478		

財産対照表の
金額と一致

通常消費損益 = (イ) - (ロ)

当期消費損益 (ホ) = (イ) - (ロ) + (ハ) - (ニ)

- 1.家庭決算書は、財産対照表と消費損益計算書から構成されています。
- 2.家庭決算書は、1年に1度、家庭簿記（家庭用複式簿記）によって決算をして作ります。また、財産対照表と消費損益計算書は連動しているのでそれぞれの「当期消費損益」は、必ず一致します。
- 3.家庭決算書は、単年で終わることなく翌年、翌翌年と継続していきます。